



都立南大沢学園通信

～情熱・誠実・実践～

東京都立南大沢学園
校長 井上 美保
令和5年5月1日発行
5月号

「学ぶ」「働く」「暮らす」

校長 井上 美保

入学式から一カ月が過ぎようとしています。新入生もすっかり学校に慣れたようです。

廊下で生徒たちとすれ違くと、「おつかれさまです」と、自然な挨拶が飛び交います。卒業後の「働く」を意識した挨拶は、すっかり校内に定着しています。「おつかれさまです」の挨拶には、相手に対する労苦へのいたわりや思いやりの気持ちが含まれています。仕事を終えた退勤時によく使いますね。優しい言葉です。これからも引き続き大切な挨拶として、続けていきましょう。

さて、先日、全校保護者会がありました。お忙しい中、遠路沢山の保護者の皆様にお越しいただき、本当に有難うございました。保護者会の中で、本校の学校経営計画の概要や目指す方向について、お話しさせていただきました。繰り返しになりますが、本校は「生徒全員の企業就労を実現する学校」です。昨今の社会状況や教育を取り巻く環境も大きく変わっていく中で、「学ぶ」「働く」「暮らす」をキーワードに、生徒自身が、自分の力で仕事に向かう環境を整え、自分の役割に責任をもって働くための知識・技能及び態度を育てていきます。そのために、日々の学校生活が充実するよう教室環境を整え、ルールを明確化し、分かりやすい環境のもと、生徒が主体的に「学ぶ」ことができるよう指導を工夫し、その充実を図っていきます。

「学ぶ」「働く」「暮らす」この先には「生きていくこと」がついてきます。真の「自立」とは、自分の力だけで何でもできるようになる事ではなく、人に助けをもらいながら対応できるようになる事です。そのためには、生徒が自分自身を正しく理解し、必要な支援が何なのか、どうすればできるのか、自分の言葉でわかりやすく周囲に伝える力が必要です。在学中だからこそできる生徒同士の関りや、コースの授業等の中で、人と協力したり、苦手な人とも折り合いをつけたりする経験を通して、できることを増やし、自分の力で「暮らす」力に変えていきましょう。

本校では、生徒一人一人のQOL（生活の質）の向上を教育の理念として掲げ、自己効力感（生徒自身が成長するために努力し続ければ、目標を達成できると信じる気持ち）を高める指導を継続しています。生徒たちが卒業後も豊かで幸せな生活を送ることができるよう、これからも生徒一人一人に必要な支援を積み上げていきます。



学ぶ



働く



暮らす



目標に向かったの学び

指導教諭 伊藤 佳子

年度初めのオリエンテーションを経て、それぞれの教科やコースの学習で、授業が本格的に始まりました。1年生も、それぞれの特別教室等での学習方法や約束事を理解し、学習に臨もうとする姿が見られます。

2、3年生はまた新たな気持ちで、学校生活や学習、部活動等において、それぞれの目標を考えています。

この目標が、生徒自身の考える、将来の『なりたい自分』『ありたい生活』につながるものとなります。

2年生の生徒に、今年の目標を聞いてみました。

「働くために必要な力を付けたいと思って入学してきたので、コースで挨拶や返事をしっかりして、基礎・基本を勉強したい。やるときと休む時の切り替えもうまくできるようになりたい。」

「報連相はできるようになってきたけれど、初めてのインターンシップでもっと敬語を使えるようになりたいので、コースでたくさん実践したい。」

「2年生では中だるみしないで、誰からも信頼されるようけじめをもって生活したい。PC検定を受けようと思うので、情報の授業を頑張りたい。」

どの学年、段階にあっても、『なりたい自分』に向けて目標をもち、実践を続けようとすることで、力を付けていくことができるでしょう。

また先日は、今春の卒業生からよい報告の電話がありました。

4月から働き始めたこの先輩は、仕事は順調でしたが通勤時に思いがけないトラブルが起こり、とても落ち込んだそうです。けれども落ち込みながらも解決方法を考え、その時に、学校で勉強したことを思い出し実践して、解決できたそうです。その後は自分で解決できたことで仕事にもさらに意欲をもって働いているそうです。在学中の学びが卒業後の生活に生かせることを実感できたのでしょう。

生徒の皆さん、南大沢学園で学ぶことは、成長するために努力し続け目標を達成できると信じる気持ちをもつこと、そして今の自分を向上させることにつながります。またこの「学び」は、将来の「働く」「暮らす」につながります。今年度も目標をもち、目標の達成に向かい学習や経験を積み重ねていきましょう。

私たちもその目標を共有し、教育活動を進めてまいります。

